

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスであるということを考慮した理念があり、理解と共有ができるよう研修の際やミーティング等で管理者が具現化し実践できるよう工夫している。	今年度のモットーは「プロ意識を持ち、あたたかく お手伝い」である。朝のミーティングでは経営計画書(職員必携)の各項(社は10か条、経営理念、介護方針、日常5心など)を日替わりで唱和している。ある職員は経営理念の1節「当たり前の事を当たり前にそして三配り(気配り、目配り、心配り)」を心に留め、取り組んでおり、経営計画書はモチベーションを上げる原動力にもなっている。言葉や態度が好ましくない職員にホーム長が「言葉が適切(友達のような話し方)でなかったね」などと注意を促している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの夏祭りやいろいろな行事に参加していただけるようお願いしている。地元の小学生との交流会やボランティアの方の参加も定着してきている。近隣にあるお店を利用させていただくことでつながりを深めている。	自治会に加入し、回覧板は必要なもののみ廻ってきている。以前はポストに公報が入っていたが今は組長がホームを訪れ手渡ししている。ホーム夏祭りのお知らせは回覧板や近隣の住宅にポスティングで告知したが、市街地のお祭りや重なり前年ほどの来訪はなかった。歌や落語のボランティア、短大生の実習、サマーチャレンジ等も受け入れている。小学校2年生、4年生、6年生、各1クラスの訪問が複数回あり、利用者も児童も馴れ、楽しく交流できている。通学時に小学生がトイレを借りに立ち寄るようになった。地域の方から野菜や花などの差し入れもある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民協の会議に参加させていただいたり、地域の方にお話ができる機会を頂き、ホームでの暮らしを通し認知症介護についてお話させていただいる。ご家族の話や、ご家族の近所の方の話を聞くなど話を聞く機会を大事にしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方や家族代表・地域代表の方に運営推進委員になっていただき入居者状況やホーム内での様子をお伝えしGHIについて理解していただくと共にご意見を頂き実際のサービスに反映させている。	家族代表、地域代表、3名の民生委員、市職員、地域包括支援センター職員の出席を得て偶数月に開催している。日時は民生委員の都合に合わせている。事業所の活動や行事、利用状況などを報告し出席者と話し合いをしている。毎回貴重な意見を頂きサービスに活かしている。民生委員の方には会議以外でも行事の手伝いや防災訓練に参加していただくなど積極的に協力をいただいている。短大の実習生が会議に出席し地域の方や市の方が施設に協力的であることや職員の働く姿勢に学ぶことが多かったこと、ユツタリする時間の中で不思議な世界にいたようだったと報告している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の担当者の方や地域包括支援センターの方から相談を受けたり、相談にのっていただいたりしています。必要に応じ出かけていくこともあります。	市の担当者や地域包括支援センター職員とは年間を通して連絡を取りあっている。地域包括支援センターからはホーム近くに住む住民の安否依頼を受けたり、病院ケースワーカーとは退院先の相談、市担当者とは生活保護者の利用相談を受けている。更新や区分変更の申請は家族の依頼や相談を受け代行している。ホームで行われる認定調査時には同席する家族が多い。介護あんしん相談員が毎月1回来訪し1時間ほど利用者の話を聴いてから報告を兼ねて職員とも話している。

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はできる限りしない方向で対応しています。玄関はセンサーをつけることで人が玄関に来るとわかるようになっており、鍵はかけずに対応できる様に取り組んでいます。	年2回全体研修で身体拘束マニュアルの読み合わせを行い、更に理解を深めるために実際、利用者に対しどのような具体的に話合っている。虐待に関しても同時に研修している。現在介助なしでは立てない利用者に臥床時のみ4本柵対応が行われている。家族への説明をし、同意書も作成し、定期的な代替策の話合いを行い、見直ししている。現在は4点柵で利用者は転倒がなく、安全な暮らしが出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心身共に健康で虐待をしないと思わない環境整備に心がけ研修を積み重ねていく中で自己啓発をし防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用しようと思った利用者様もいます。管理者・職員共に概要は理解しており、家族・関係者とも必要に応じて情報交換しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時共に契約書・重要事項を読み合わせをしながら説明し、不安なことや疑問がないか伺いながら承諾を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や来所時、意見、不満、苦情を聞く意見箱設置するなどして聞く機会を設けており、また、外部機関にも窓口があることを玄関に掲示させていただいている。	殆どの利用者が言葉で思いを伝えることが出来る。毎月ホームからの連絡と居室担当が本人の様子を書いた「ホーム便り」を家族に送っている。ブログでも写真を載せており、家族はそれを開いてみる事ができる。家族間交流は上手く行っており、面会時には自分の親以外の利用者にも声を掛けたり話しをする姿が多く見られるようになった。年1回利用者満足調査を行った中で、「職員の異動を聞いていない」と答える家族が多かったことを検討し、現在はホーム便りで知らせたり、運営推進会議でも報告するように改善した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より職員の意見を聞くように声掛けを行っている。また、カンファレンスや研修の際にも何でも話せる雰囲気作りを心がけている。	毎朝のミーティング(2ユニット合同)と昼食後のミーティング(ユニット毎)があり、全体研修を月に2回開催し全職員が受講できるよう工夫している。職員は固定でなく3~6ヶ月のローテーションでユニット間を異動している。利用者ケアの統一のためもあり、ユニット会議が職員の異動に合わせて開かれることもある。キャリアパスが導入されており介護スキルに応じた項目を用い、各自、自己評価の後、考課者から評価、面談(年2回)を受けている。男性職員の多い職場であるが、職員間のコミュニケーションは取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、事業所内で日頃の取り組みに対する自己評価を実施している。運営者は、それに目を通すと共に日頃の努力や実績を把握し、実績を評価、その上で、職員は向上心を持ち、仕事をすることができている。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や同法人内での交換研修が受けられるように検討中。外部での研修にも積極的に参加できるようにスキルアップのための取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われるスタッフ研修や他施設との交流を図ることでネットワーク作りやサービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報はご家族やケアマネから情報を頂いたり、アセスメントに目を通し本人の話を傾聴させていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接は、本人、家族はもとより、なるべく多くの関係者から情報を聞いた上でサービスの提供を決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のG.Hや施設の特徴を伝え、その利用者様に適していると思われるサービスや内容の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員を心配してくださる利用者様。何気なくかけていただいた言葉や笑顔に励まされることが沢山あります。少し休みなさいよ。一緒にお茶を飲もうと声をかけてくださる利用者様は共に暮らす家族です。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思い、家族を思う利用者様のおもいをおききしながら、今ホームで出来ることをお伝えし一緒に考えさせていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃からずっとひいきにしている床屋さんに出張できただき髪を切っていただく。髪を切る間積もる話に花が咲き、明るい笑顔が見られる利用者様がいらっやいます。大切にしてきたものはとでも大事だと思います。	家族以外には親戚の方や友人が来訪している。お盆やお正月に外出や外泊する利用者は少ないが、今年のお正月に2泊3日で外泊した利用者がある。家族と一緒に墓参りをした利用者もいる。美容院は華やかな雰囲気があり、その中でカットしてもらうことを楽しみとしている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係を把握した上で話題を提供したり、テーブルでの席や入浴等の順番を工夫し、トラブルを未然に回避できるようにしている。利用者同士の助け合いや、気配りも危険のない範囲であれば見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても電話にてご様子を伺う。必要に応じて今までと同様ご家族様のご相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のご意向に従い、サービスが提供できるよう心掛けている。時には家族も交えて話し合う機会を設けている。	日々の関わりの中で本人の意向をその都度確認しながら、お風呂に案内したり、食事の準備などの作業をお願いしている。利用者は言葉やしぐさで思いや希望を伝えることができる。大勢の中では話さなくても職員と一対一になるような機会に利用者のほうから話してくることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境、以前からの習慣や嗜好趣味の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種チェック表を利用し、心身の健康状態を把握し役割や一日の過ごし方の把握に努めている。把握した情報は職員全体に共有できるよう記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの情報収集を行い評価を行う際に反映させている。職員間でもミニカンファレンスを行い意見を出し合っている。	本人や家族から生活に対する意向を伺い、居室担当(一人で2名担当)からの本人の様子や気づきについての話を参考にし計画作成担当者が介護計画を作成し、ユニット会議で検討が行われている。短期目標は毎日実施欄に「○△×」で記入し、「×実施できない」日が多い場合には居室担当が見直し、計画作成担当者が修正や作り直しをしている。評価見直しは3~6ヶ月で行い、継続することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録申し送り等は日勤帯が黒、夜間帯が赤としわかりやすく、必要な情報が共有できるよう工夫し実践や計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コミュニケーションを大事にしながら、ご本人が何をしたいのか、どんな思いがあるのかを捕らえていく。家族が面会に来てくださった際、利用者様の様子を伝えながらご家族様からのお話も聞かせていただきサービスに生かしていく。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生との交流や民生委員の訪問等により、いろんな方と触れあったり話を聞く機会を設けている。地元で行われているどんど焼きやお祭りにも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院の支援を行っている。通院が難しい利用者様は往診に来ていただき、適切な医療を受けられるよう支援している。	8名の利用者がそれぞれのかかりつけ医の往診を受け、他の8名の方は家族に支援していただき通院している。また、2名の利用者がホームの職員の付き添いで通院している。急変時には家人と一緒に受診助助を行った。様子を書いた書面を医療機関に持参していただいている。場合によっては医療連携表をFAXすることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師である為、必要に応じた受診や処置看護を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、また、入居者を交え見舞いに行った際や、付き添い家族等から医師や看護師との情報交換、また、受け入れ可能(医療的な処置が可能な状態)であれば早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については家族、主治医の先生と何度も話し合いの場を持ち、家族の合意のもと往診に切り替え職員全員で情報を共有している。	「重度化した場合における対応に係るホームの指針」が作成されている。利用者や家族には利用開始時に説明している。殆どの家族は看取りまでを希望している。その時が訪れた時には再度指針を説明し意思確認している。医師はホームでの対応が可能かどうか判断し、家族の協力が得られれば看取り支援の提供が可能となる。今年度は5名の方の最期をご家族と共に看取っている。家族からは「病院でなくここでよかった、弱っていく親を見て来て、覚悟が出来た。いい時間をもらった。職員さんの動きも見ることが出来た。ありがとう」等、沢山の感謝の言葉が送られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法は記録に残し実践の場面で迷わないようにしている。急変や事故発生についても手順を周知するよう研修を行っている。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホームでの火災が連日、テレビの放送で取り上げられている。避難訓練はもとより火元が危なくないように常に点検を行っている。	年2回、昼・夜想定避難誘導訓練を消防署の指導の下、地域の協力を得ながら利用者也参加し実施している。通報訓練、初期消火訓練も同時に行なわれている。防災設備はスプリンクラー、自動火災報知機、誘導灯、消火器などが整っている。毎日、職員がチェック項目に沿って火元確認し火災を起こさないよう取り組んでいる。職員のみで緊急通報訓練や火元を変えながら避難する方向へ逃げるなど、毎月ユニット毎で小訓練を行い、いざという時に実践できるよう取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、職員それぞれが普段からプライバシーを損ねるような声掛けや対応をしないよう心掛けているが、ミーティングの際等、職員同士、お互いのかかわりについて良い点・改善点について話し合い、マンネリ化や馴れ合いを防ぐようにすることを心掛けている。	呼びかけは利用者の反応により決めている。夫婦で利用されている方は名前で呼ばれている。重要事項に基本的人権とプライバシーを尊重し「穏やかに、和やかに、安心して」をモットーにサービスを提供することが記されている。また、「基本的人権を尊重した安心と尊厳のある生活」という基本理念を共有し、日々、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれの理解力に応じ判りやすい言葉を選び、時には写真や広告等を見ていただいたりして理解しやすく、伝えやすくできるように働きかけている。言葉だけに頼らず表情や行動からも思いや希望を察知できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	G・Hでの生活パターンはあるが、無理強いすることなく、本人の希望や体調により配慮した生活を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服が好きな利用者様とは洋服を一緒に決めたり、美容院に一緒に行くなど、おしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまでは役割のひとつとして、それぞれに合わせた支援を一緒に行っている。食事や飲み物の好みについても把握しおいしく食べていただけるよう心掛けている。	委託業者が食材を届けている。食事作りの一連の作業のお手伝いは難しいことが多いが、おやつ作りとして昨年は野沢菜のおやきを作り、今年アンコのおやきを作った。節分には恵方巻を作り、いわれに沿って今年の方角を向き黙って食べたという。利用者と職員がテーブルを囲み会話を楽しみながら賑やかに食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量については、ケース記録に残し状態を把握、水分を多めに摂っていただくための工夫や声掛けを行っている。しつこくなりすぎないように注意しながらもバランスよく水分や栄養が摂れる様配慮している。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂き十分に磨くことの出来ない方は介助させていただいている。義歯については、磨くほか週一度洗浄剤にて浸け置き洗いをしている。可能な方には、磨き方の指導を歯科衛生士さんをお願いし定期的に見て頂いたり職員からも声掛けさせていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が排泄パターンを把握し、それに応じてトイレ誘導や介助を行っている。オムツのあて方や使用方法について講習を受けできるだけ不快の無いよう配慮し、また、失禁にならないよう支援している。	オムツ、リハビリパンツ、パット等一人ひとりの排泄状況に合わせた介護用品を使用している。日中は本人の排泄パターンやリズム、しぐさなどから声がけ誘導をしている。尿意のある利用者に関しては声がけのタイミングを外さない限り、失敗することは少ない。利用開始当初は時間などを見ながら誘導し状況を見ている。排泄支援は本人の気持ちを大切に、配慮しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて、個人の排泄パターンを把握し、水分補給や食事内容にも配慮しています。食事の後トイレにしわっていただく、そんな当たり前のことが一番の便秘予防です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保てれば回数にこだわらず、ゆっくり入浴して頂ける様日程や順番、入浴時間や介助方法を決めている。声掛け誘導はさせていただいているが無理強いはいらない。	浴室には可動式浴槽が壁際にあり、また、シャワーキャリーもあり、ユツタリとお風呂を楽しむための十分な広さがある。入浴を拒む方がいるが、男性職員が声を掛けると入浴するという。週2回の入浴を基本としているが利用者の希望にも対応している。季節を感じさせるお風呂では香りを楽しみ、菖蒲湯で利用者の健康を願い、柚子湯では風邪を引かないようにと昔ながらの行事を続けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方で夜間安心して気持ちよく眠れるか。左右されやすい心身の状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬局から頂いている薬の説明書をファイルしてある。服薬の変更や主治医からの指示は記録に残すと共に申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事、苦手な事、情報を元に居心地のいい環境作りを支援している。役割を持っていただく事で達成感や満足感が得られるよう声掛けしている。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	美容院や理髪店など気分転換と運動も兼ねて、車椅子や徒歩にて出かけて頂いている。天気の良い日はホーム内外の散歩に出かけ、中庭に植えた野菜の収穫や花がら摘み、草取りも自由に行って頂いている。	季節の良い時期には日常的にホーム周辺の散歩コース(大仏殿の往復1時間、蓮香寺、住宅地内散策、大型店広場など)を日替わりで、車椅子の方も一緒に出掛けている。四季折々、市内や近隣市町村へドライブがてら外出(初詣、花見、アンズ、高橋まゆみ人形館、菊花展、紅葉狩りなど)し、お弁当を持ちたり時には外食もしながら一日を皆で楽しんでいる。個別での希望があれば買い物にも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持していた方で、管理能力のある方については御家族と相談の上所持していただいている。お金を持っていることで落ち着かなくなってしまう方もいらっしゃるため個々に対応させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳が遠い方が多く電話での会話が難しいが、職員が間に入り支援させていただいている。届いた手紙はご本人に渡したり、代読させていただき、親しい方との交友関係を保てるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレに行きたいタイミングが重なってしまったり、いつも使っているトイレが空いてなかったりという事はあるものの、職員の声掛けと誘導、ご利用者様同士での譲り合いで過ごして頂いています。室内は明るく中庭の花が良く見渡せるようになっており、植えられた花や野菜、植木で季節感を感じて頂いています。	玄関を挟んで各ユニットの入口がある。格子戸風の戸を開け、その奥の引き戸を引くと広いリビングがある。中庭があり柿や桜の木が植えられ、パンジー(雪の中でも元気に咲いている)のプランターも置かれ、今は雪の下だが野菜畑もある。リビングや廊下、憩いのスペースからも中庭が良く見え、安らげる空間となっている。一段高い小上がりには大型のコタツがあり、やり掛けの道具がテーブルの上に置かれており生活感が漂っていた。床暖とエアコンで室温が調節されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と和室交流スペース等、好きな場所で好みに過ごして頂けるよう共有スペースが随所にあり、ゆったり過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた家具の持ち込みを勧めており、布団や枕についても新しいものではなく、今まで使っていたものを持ってきて頂くようお願いしています。写真やお仏壇などご本人が大切にされてるもの、自分の部屋だとくつろいで頂ける空間になるよう工夫しています。	各居室の入り口には表札代わりの花やくだもの絵が掲げられている。利用者は花の絵から自室を確認したり、トイレの横と認識している方もいる。入口の戸は幅広の一枚戸で、見た目は重そうであるが吊戸なので驚くほど軽い。可動式のクローゼットと洗面台、ベッドが備えつけられている。居室には家具、冷蔵庫、テレビ、テーブル、椅子、写真等があり、自宅の部屋がそのまま移されたような居室もある。クローゼットの位置で居室の雰囲気の違い、個性が感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、玄関、廊下には手擦りが付いており、それぞれの身体能力に合わせ利用して頂いています。廊下の手擦りは時にはリハビリとしても使っています。ベッドの向きや家具についても、ご本人、御家族とよく話し合った上で設置させて頂き使いやすい環境作りに配慮しています。		